

# 4SY算数 月例対策練習問題

予習シリーズ  
4年①第20回

## 4年算数 (月例テスト 第4回) (その1) (2023. 7. 14~16)

題 目	総 合
-----	-----

- ※ 問題用紙は、(その1)から(その4)までありますから、注意してください。
- ※ 答えは、別紙の解答らん<sup>べつ</sup>に書き入れ<sup>かい</sup>なさい。
- ※ 消費税<sup>ひぜい</sup>は考えないものとします。

**1** 次の□にあてはまる数を求めなさい。  
20

(1)  $987 \div 65 = \square \text{ア}$  あまり  $\square \text{イ}$  (商は整数で求めなさい。)

(2)  $3.14 - 1.32 = \square$  (小数で求めなさい。)

(3)  $112 \times 9 - 12 \times 9 = \square$

(4)  $14 \times \square - 6 = 64$

**2** 次の問いに答えなさい。  
40

(1) 14の約数<sup>やく</sup>は全部で何個<sup>こ</sup>ありますか。

(2) 1から50までの整数の中に、7の倍数は何個ありますか。

4 年 算 数 (月例テスト 第4回) (その2) (2023. 7. 14~16)

(3) 1L入りのジュースのびんと3L入りのジュースのびんが合わせて6本あり、ジュースの量の合計は14Lです。1L入りのジュースのびんは何本ありますか。

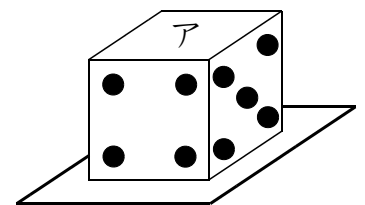
(4) 1辺が5cmの立方体の、辺の長さの合計は何cmですか。

(5) 次の4個の整数のうち、素数はどれですか。

9, 10, 11, 12

(6) 15と25の最小公倍数はいくつですか。

(7) 右の図のように、1個のさいころをつくえの上に置いたところ、まわりから見える5つの面の目の合計が20になりました。このとき、アの面の目の数を数字で答えなさい。ただし、さいころの向かい合う面の目の合計は7です。



(8) 1個200円の品物があります。この品物を1個運ぶと10円もらえますが、運んでいるとちゅうでこわしてしまうと、10円がもらえないだけでなく、品物代の200円を弁償しなければなりません。Aさんは、200個の品物を運んで、320円もらいました。こわしてしまった品物は何個ですか。

3  
10

3つの整数12と18と24について、次の問いに答えなさい。

- (1) 12と18と24の最大公約数はいくつですか。
  
- (2) 12と18と24の最小公倍数はいくつですか。

4  
10

あるお店では、1個120円のゼリーと1個200円のプリンを売っています。これについて、次の問いに答えなさい。

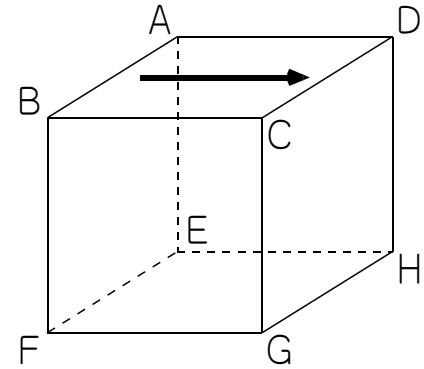
- (1) Aさんは、このお店でゼリーとプリンを合わせて10個買い、2000円を出したところ、おつりは400円でした。Aさんはプリンを何個買いましたか。
  
- (2) Bさんは、このお店でゼリーとプリンを合わせて15個買い、80円の箱につめてもらったところ、箱代もふくめた代金の合計が2600円になりました。Bさんはゼリーを何個買いましたか。

5  
10

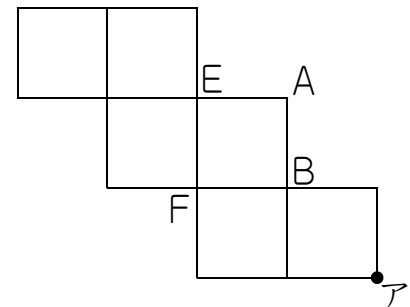
(図1)のように、立方体の表面に矢印をかき入れました。  
(図2)はこの立方体の展開図ですが、矢印はかかれていません。これについて、次の問いに答えなさい。

- (1) (図2)の点アは、(図1)のどの頂点に対応していますか。
- (2) 解答用紙の展開図に、立方体にかかれた矢印を、矢印の向きが正しくなるようにかき入れなさい。

(図1)



(図2)



6  
10

1 から100までの整数について、次の問いに答えなさい。ただし、「わり切れる」とは、商が整数であまりがない場合のこととします。

- (1) 3でも4でもわり切れる整数は、全部で何個ありますか。
- (2) 3でわり切れるが4でわり切れない整数は、全部で何個ありますか。

# 4SY算数 月例対策練習問題



予習シリーズ4年㊦第20回

得点 \_\_\_\_\_

月例テスト第4回 4年 算数  
解答用紙 (2023. 7. 14~16)

氏名	
----	--

1  
5

(1)	ア _____ イ _____
-----	-----------------

(2)	_____
-----	-------

(3)	_____
-----	-------

(4)	_____
-----	-------

2  
5

(1)	_____ 個
-----	---------

(2)	_____ 個
-----	---------

(3)	_____ 本
-----	---------

(4)	_____ cm
-----	----------

(5)	_____
-----	-------

(6)	_____
-----	-------

(7)	_____
-----	-------

(8)	_____ 個
-----	---------

3  
5

(1)	_____
-----	-------

(2)	_____
-----	-------

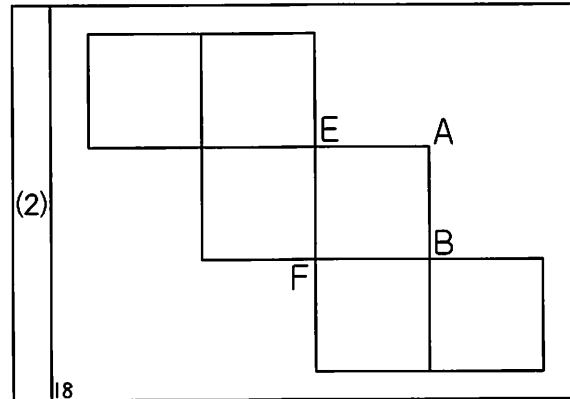
4  
5

(1)	_____ 個
-----	---------

(2)	_____ 個
-----	---------

5  
5

(1)	頂点 _____
-----	----------



6  
5

(1)	_____ 個
-----	---------

(2)	_____ 個
-----	---------

## 算 数

### 解 答

- ① (1)  $15 \cdot 12$  (2) 1.82 (3) 900 (4) 5  
 ② (1) 4 (2) 7 (3) 2 (4) 60 (5) 11 (6) 75 (7) 6 (8) 8  
 ③ (1) 6 (2) 72  
 ④ (1) 5 (2) 6  
 ⑤ (1) D (2) 解説参照  
 ⑥ (1) 8 (2) 25

### 解 説

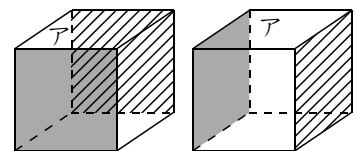
- ② (1)  $14 = 1 \times 14, 2 \times 7 \rightarrow 14$ の約数は1, 2, 7, 14の4個  
 (2)  $50 \div 7 = 7$ あまり1  
 より,  $(7 \times 1 =) 7, (7 \times 2 =) 14, \dots, (7 \times 7 =) 49$ の7個あります。  
 (3) すべて3 L入りのびんとして考えます。  
 $(3 \times 6 - 14) \div (3 - 1) = 2$  (本) …… 1 L入りのびんの本数  
 (4) 立方体に辺は12本ありますから、辺の長さの合計は、  
 $5 \times 12 = 60$  (cm)  
 (5) 素数とは、約数が1とその数自身の2個しかない整数のことです。4個の整数のうち、これにあてはまるのは11です。

**補足** 9の約数の個数は3個, 10の約数の個数は4個, 12の約数の個数は6個です。

- (6) 右の連除法より、最小公倍数は、  
 $5 \times 3 \times 5 = 75$

$$5 \begin{array}{r} 15 \\ 3 \end{array} \begin{array}{r} 25 \\ 5 \end{array}$$

- (7) 表に見えている目のうち、向かい合う目がともに見えているのは2組(前面と後面, 左面と右面)あります。それらの目の合計は、  
 $7 \times 2 = 14$   
 ですから、アの面の目は、  
 $20 - 14 = 6$



- (8) すべてこわさずに運べたとすると、  
 $10 \times 200 - 320 = 1680$  (円) …… 実際のもらえたお金との差  
 ここで、こわさずに運べた品物1個をこわしてしまった品物1個におきかえると、もらえるお金は  $(10 + 200 =) 210$  円ずつ減りますから、こわしてしまった品物の個数は、  
 $1680 \div 210 = 8$  (個)

③ (1) 右の連除法より、最大公約数は、

$$2 \times 3 = 6$$

$$\begin{array}{r} 2) 12 \quad 18 \quad 24 \\ 3) \quad 6 \quad 9 \quad 12 \\ \hline \quad 2 \quad 3 \quad 4 \end{array}$$

(2) 右の連除法より(太字部分)に注意、最小公倍数は、

$$2 \times 3 \times 2 \times 1 \times 3 \times 2 = 72$$

$$\begin{array}{r} 2) 12 \quad 18 \quad 24 \\ 3) \quad 6 \quad 9 \quad 12 \\ 2) \quad \mathbf{2} \quad \mathbf{3} \quad \mathbf{4} \\ \hline \quad \mathbf{1} \quad \mathbf{3} \quad \mathbf{2} \end{array}$$

④ (1)  $2000 - 400 = 1600$ (円) ……ゼリーとプリンの代金の合計

すべてゼリーとして考えます。

$$(1600 - 120 \times 10) \div (200 - 120) = 5 \text{ (個)} \quad \dots\dots \text{買ったプリンの個数}$$

(2) 2600円には箱代がふくまれていることに注意して、

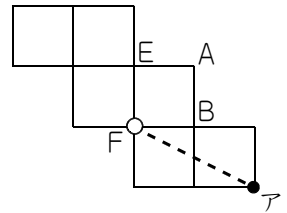
$$2600 - 80 = 2520 \text{ (円)} \quad \dots\dots \text{ゼリーとプリンの代金の合計}$$

すべてプリンとして考えます。

$$(200 \times 15 - 2520) \div (200 - 120) = 6 \text{ (個)} \quad \dots\dots \text{買ったゼリーの個数}$$

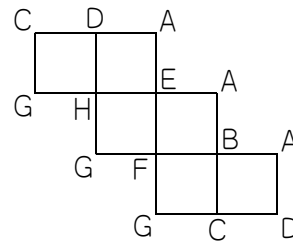
⑤ (1) 展開図上で、正方形2つをならべてできる長方形の対角線の位置に (図1)

ある2点は、立方体(見取図)の最も遠い2つの頂点になります。(図1)より、アとFがこの2点にあてはまりますから、アは見取図でFから最も遠い頂点であることがわかります。したがって、見取図でアに対応する頂点はDです。

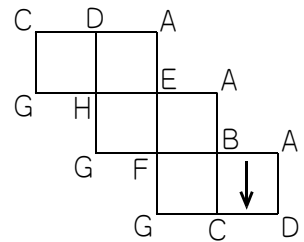


(2) 展開図に頂点の記号をかき入れると(図2)のようになります。矢印は、面ABCD上にかき入れればよいので、向きに注意してかき入れると、(図3)のようになります。

(図2)



(図3)



⑥ (1) 3でも4でもわり切れる整数は、3と4の公倍数です。最小公倍数は(3×4=)12ですから、1から100までの整数の中の12の倍数の個数を求めます。したがって、

$$100 \div 12 = 8 \text{ あまり } 4 \rightarrow 3 \text{ でも } 4 \text{ でもわり切れる整数は } 8 \text{ 個}$$

(2) 3でわり切れるが4でわり切れない整数は、右の図のアの部分にふくまれる数で、3の倍数(ア+イ)から12の倍数(イ)をのぞいたものです。

$$100 \div 3 = 33 \text{ あまり } 1 \rightarrow 3 \text{ の倍数は } 33 \text{ 個}$$

よって、アの部分にふくまれる数は、

$$33 - 8 = 25 \text{ (個)}$$

